

# 2023年度 第2四半期 決算説明会

2023年(令和5年)11月28日



# 目次

- I. 2023年度 第2四半期 決算の概要
- II. 経営実績の推移
- III. 第15次中期経営計画の進捗
- IV. 成長戦略



# 目次

## I. 2023年度 第2四半期 決算の概要

## II. 経営実績の推移

## III. 第15次中期経営計画の進捗

## IV. 成長戦略



# 1. 2023年度 第2四半期 連結決算の概要

- 連結売上高は、鋼材等のコスト増分の販売価格への転嫁、円安影響により前期比1.6%増収
- 営業利益は、売上構成の変化や電力費などのコストが増加したことにより、前期比50.4%減益

(単位:百万円)

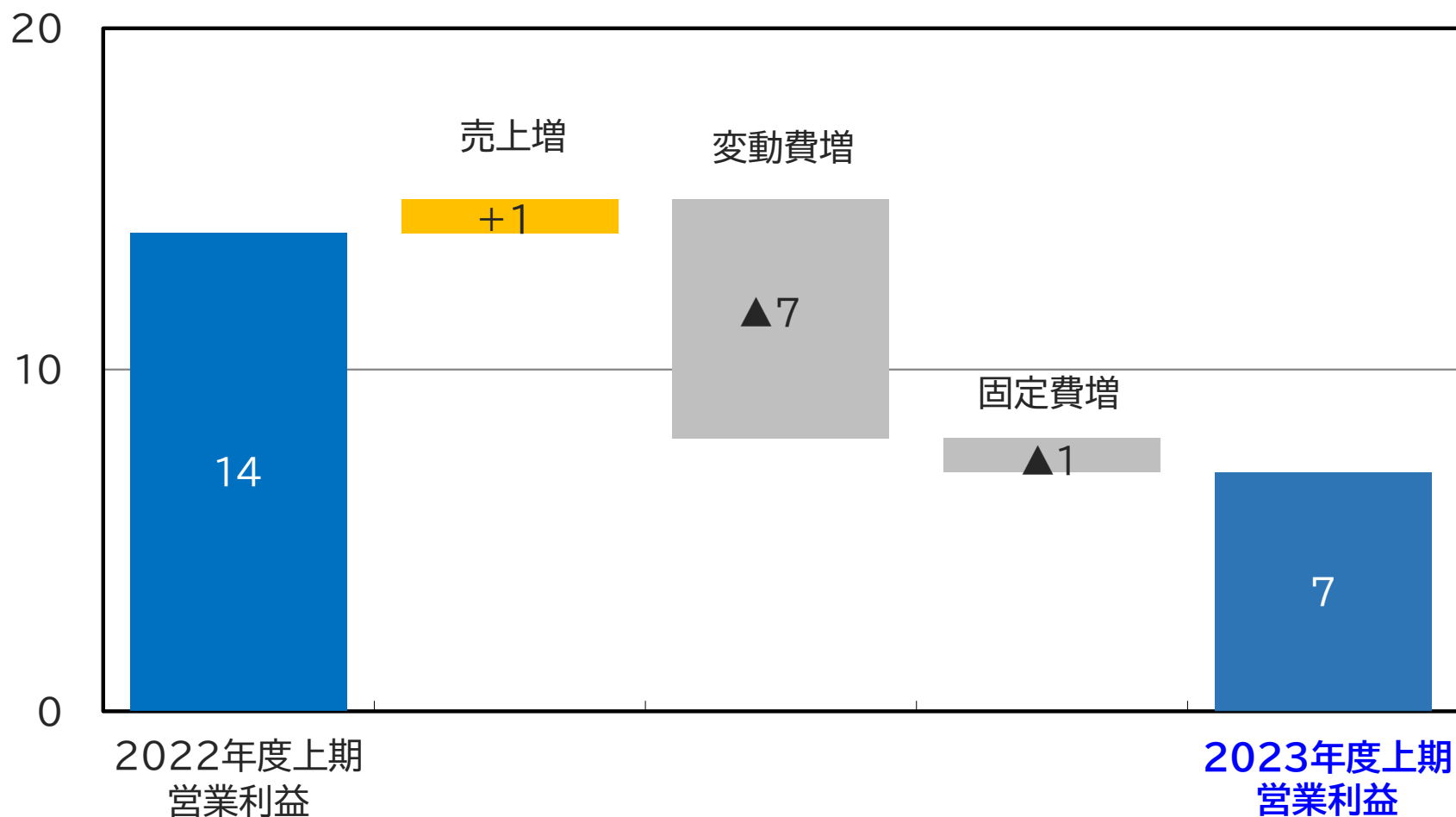
	2022年度 上期	2023年度 上期	増 減	増減率	2023年度 通期予想
売上高	27,859	28,302	442	1.6%	63,000
営業利益	1,393	690	▲ 702	▲50.4%	2,800
経常利益	2,030	1,182	▲ 848	▲41.8%	3,300
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	1,221	678	▲ 542	▲44.4%	2,000

(注)換算レート 上期 : 1中国元=19.94円、1USドル=144.99円(2023年6月末)  
通期予想 : 1中国元=20.46円、1USドル=149.58円(2023年9月末)

## 2. 連結営業利益の増減要因

- 主として材料費や電力費の高騰により変動費が増加したため、7億円の減益
- 減価償却費は減少したものの、本社費などの販管費が増加したため、1億円の減益

(単位:億円)



### 3. セグメント情報(連結売上高)

- 製品事業部関連: 鋼材や電気代等コスト増分の販売価格への転嫁影響により増収
- IH事業部関連(受託加工): 自動車業界からの受注は回復基調で推移しているものの、工作機械業界からの受注が大幅に減少
- IH事業部関連(装置関連): 設備投資需要は国内、海外ともに堅調に推移し、増収

(単位:百万円)

事業区分	2022年度 上期	2023年度 上期	増 減	増減率
製品事業部 関連事業	17,722	18,394	671	3.8%
IH事業部 関連事業	10,067	9,837	▲ 229	▲2.3%
そ の 他	69	70	0	0.7%
合 計	27,859	28,302	442	1.6%

## 4. セグメント情報(連結営業利益)

- 製品事業部関連: 土木・建築関連製品において、販売価格を改定した製品の売上が資材高騰に伴う計画の見直しや人手不足に伴う工事着工遅れ等により、後ろ倒しとなったことなどが減益要因
- IH事業部関連 : 自動車関連業界からの受注が回復基調で推移しているものの、工作機械業界からの受注は、顧客の在庫調整により大きく低下していることなどが減益要因

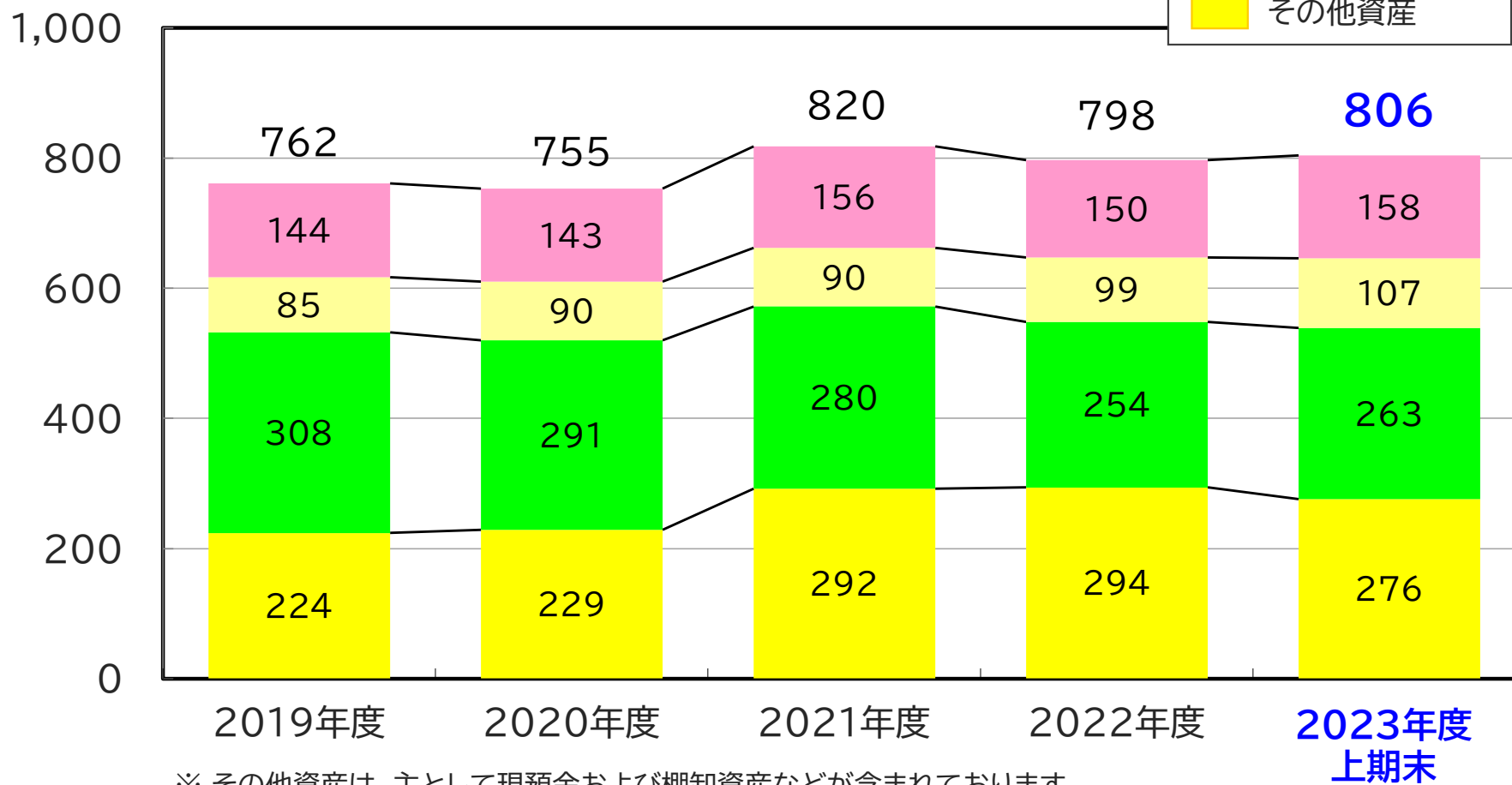
(単位:百万円)

事業区分	2022年度 上期	2023年度 上期	増 減	増減率
製品事業部 関連事業	570	86	▲484	▲84.8%
IH事業部 関連事業	792	572	▲220	▲27.8%
そ の 他	27	29	1	6.9%
セグメント間 取引消去	2	2	▲0	▲15.5%
合 計	1,393	690	▲702	▲50.4%

## 5. 資産残高の推移(連結)

- 総資産は、自己株式の取得などにより現預金が減少したものの、有形固定資産の増加などで前年度末比8億円増加

(単位:億円)

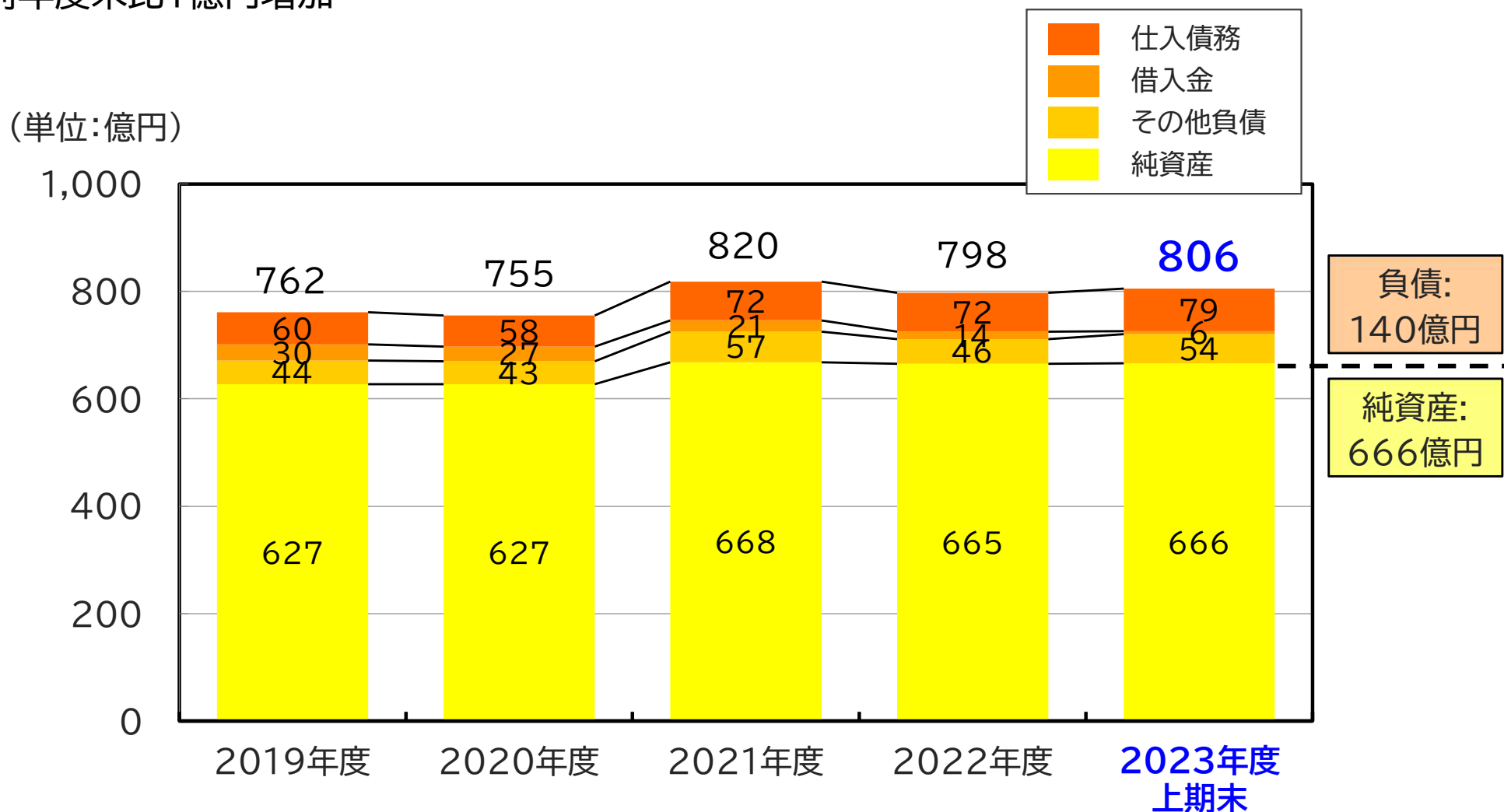


※ その他資産は、主として現預金および棚卸資産などが含まれております



## 6. 負債・純資産残高の推移(連結)

- 負債は、仕入債務が増加したことなどにより、前年度末比6億円増加
- 純資産は、積極的な自己株式取得を実施するも、円安により為替換算調整勘定が増加し、前年度末比1億円増加



## 7. キャッシュ・フロー(連結)

- 営業CF: 前年同期比で仕入債務が増加したこと、棚卸資産が減少したことなどにより増加
- 投資CF: 前年同期比で有形固定資産の取得が増加したことなどにより減少
- 財務CF: 前年同期比で借入金の返済が進んだことなどにより減少

(単位:百万円)

科 目	2022年度 上期末	2023年度 上期末	増 減
税金等調整前四半期純利益	2,045	1,208	▲ 836
減価償却費	1,363	1,160	▲ 202
売上債権の増減	1,357	▲649	▲ 2,007
仕入債務の増減	▲ 426	543	970
その他	▲ 2,509	▲99	2,409
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,830	2,164	333
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 904	▲1,362	▲ 458
フリーキャッシュ・フロー	926	801	▲ 124
借入金	▲ 385	▲708	▲ 323
自己株式の取得	▲ 1,028	▲952	76
配当金の支払額	▲ 678	▲565	112
その他	▲ 524	▲1,116	▲ 592
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲2,617	▲3,344	▲ 726
キャッシュ・フロー期末残高	17,116	14,904	▲ 2,212

I. 2022年度 第2四半期 決算の概要

II. 経営実績の推移

III. 第15次中期経営計画の進捗

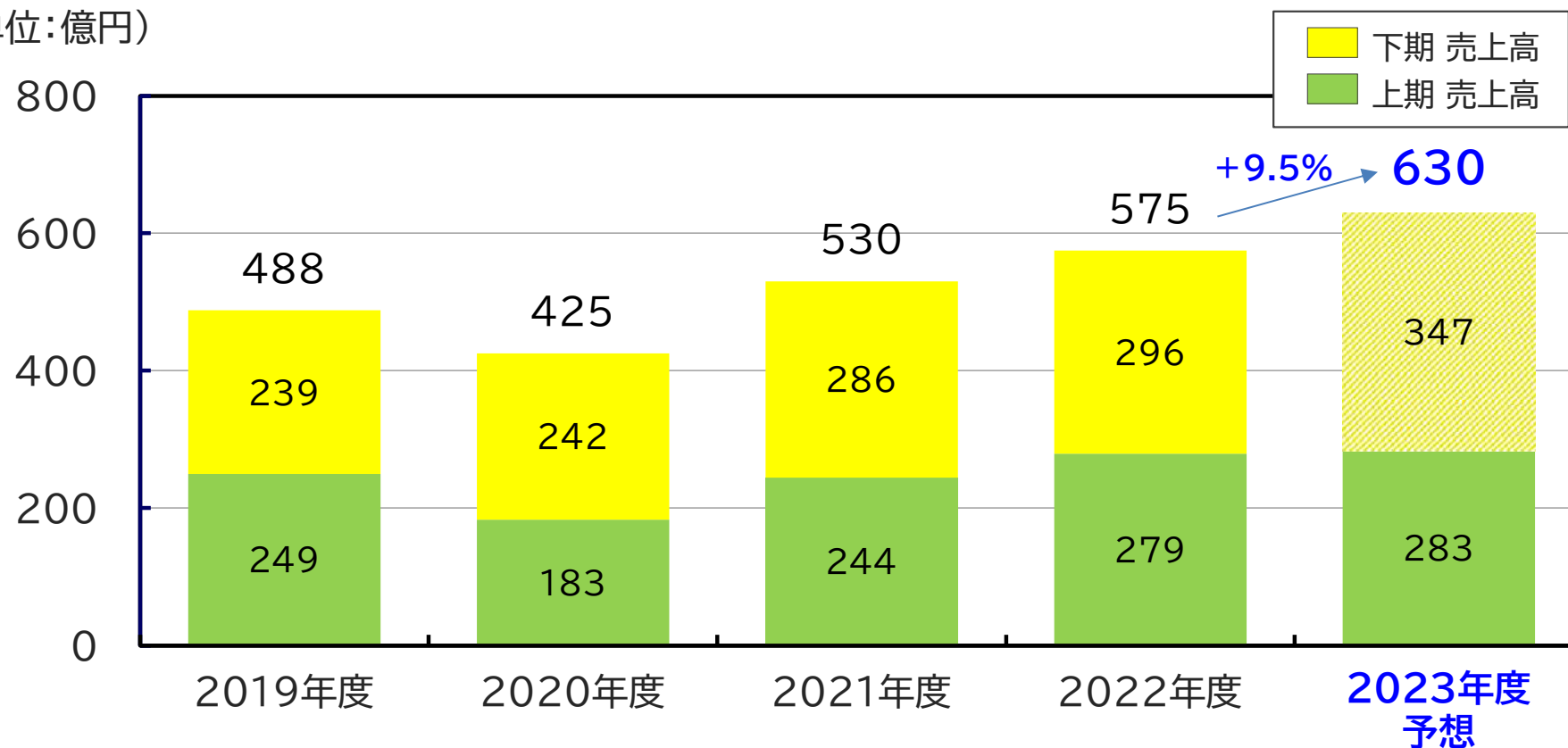
IV. 成長戦略



## 8. 連結売上高の推移

- 23年度通期は、上期後半からの自動車の受注回復が下期も継続すると見込むとともに、販価改定活動の推進、為替影響などにより、前期比9.5%増収の630億円を見込む。

(単位:億円)



第14次中期経営計画

第15次中期経営計画

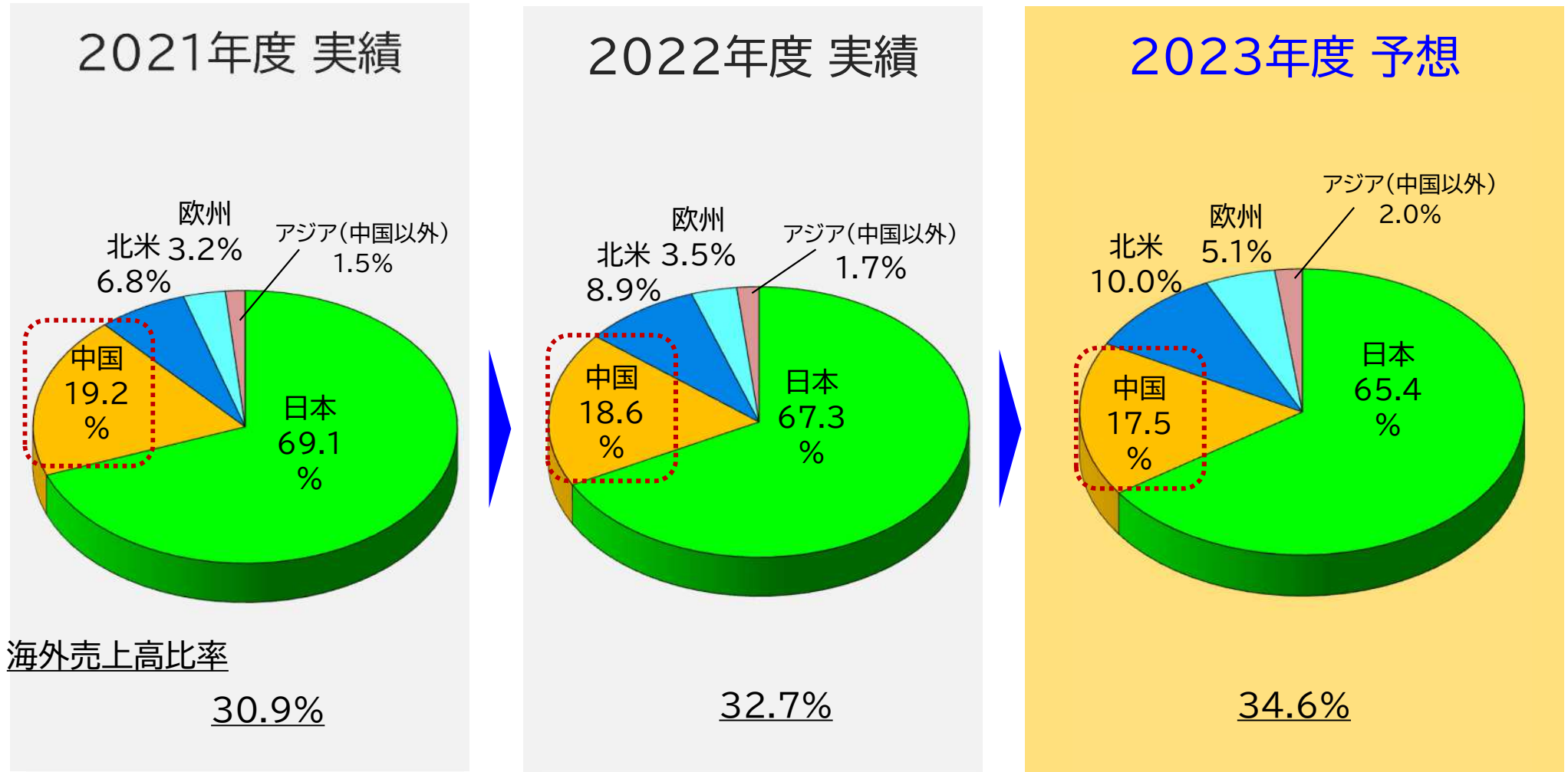
【換算レート】

・ 2022年度 1中国元=19.01円、1USDドル=132.70円

・ 2023年度 1中国元=20.46円、1USDドル=149.58円

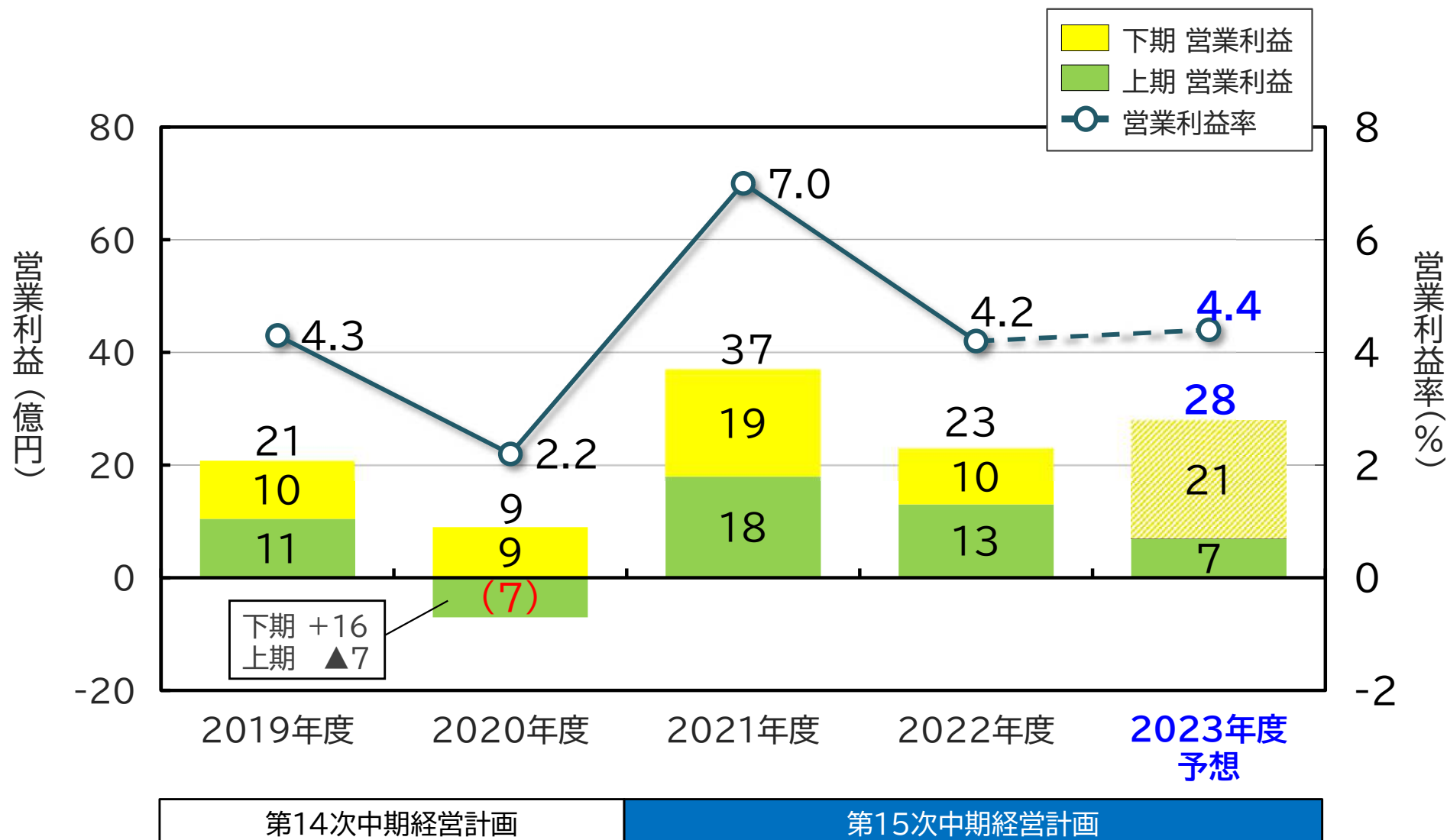
# 9. 地域別売上高の推移

- 近年の中国エリアでの売上伸長率鈍化を、他エリアでリカバー



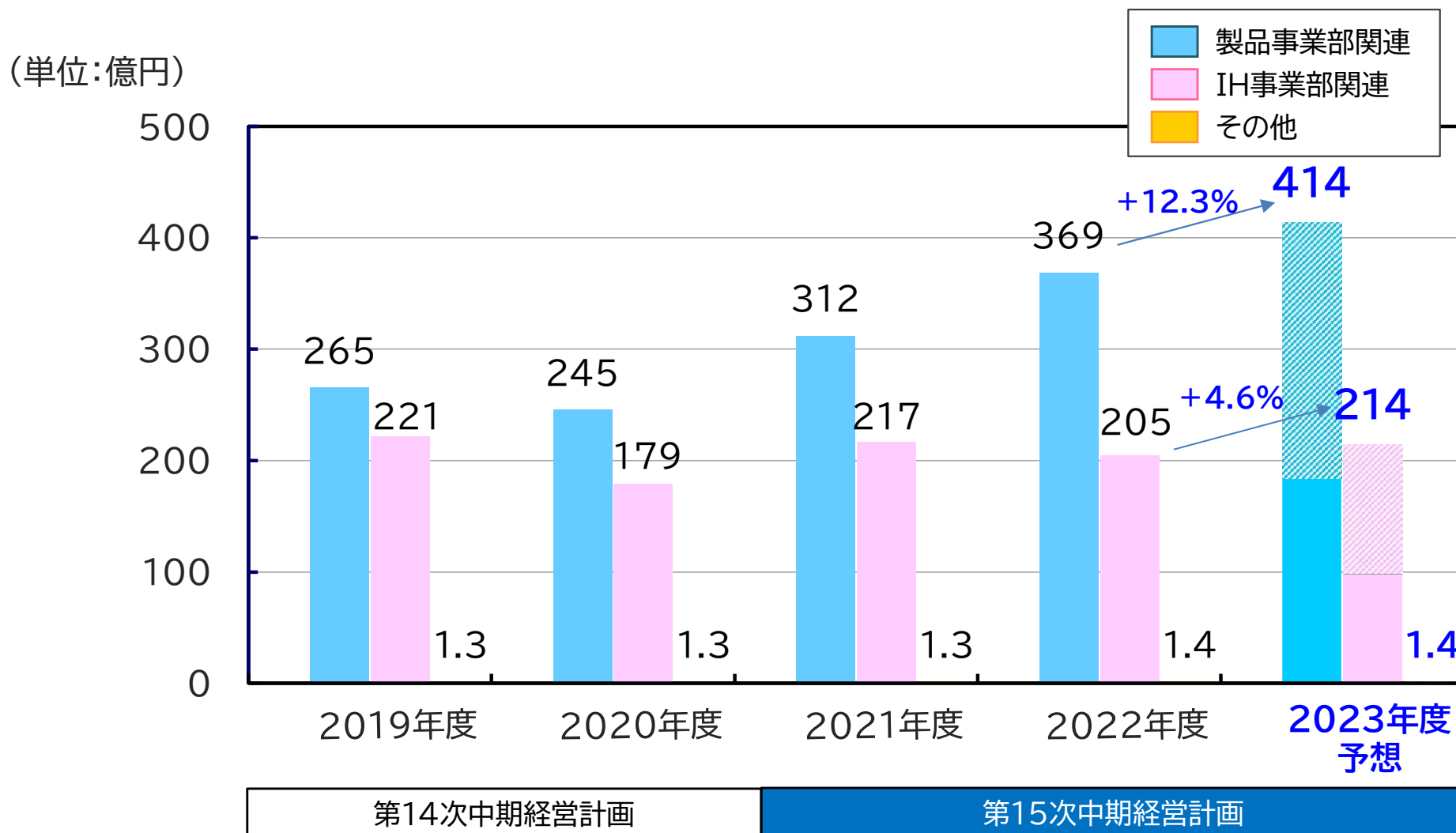
# 10. 連結営業利益・連結営業利益率の推移

- 23年度通期は、上期後半からの自動車の受注回復による増収効果、鋼材や電気代等のコスト増加分の転嫁や、工事が遅れている土木・建築業界からの受注回復を見込む。



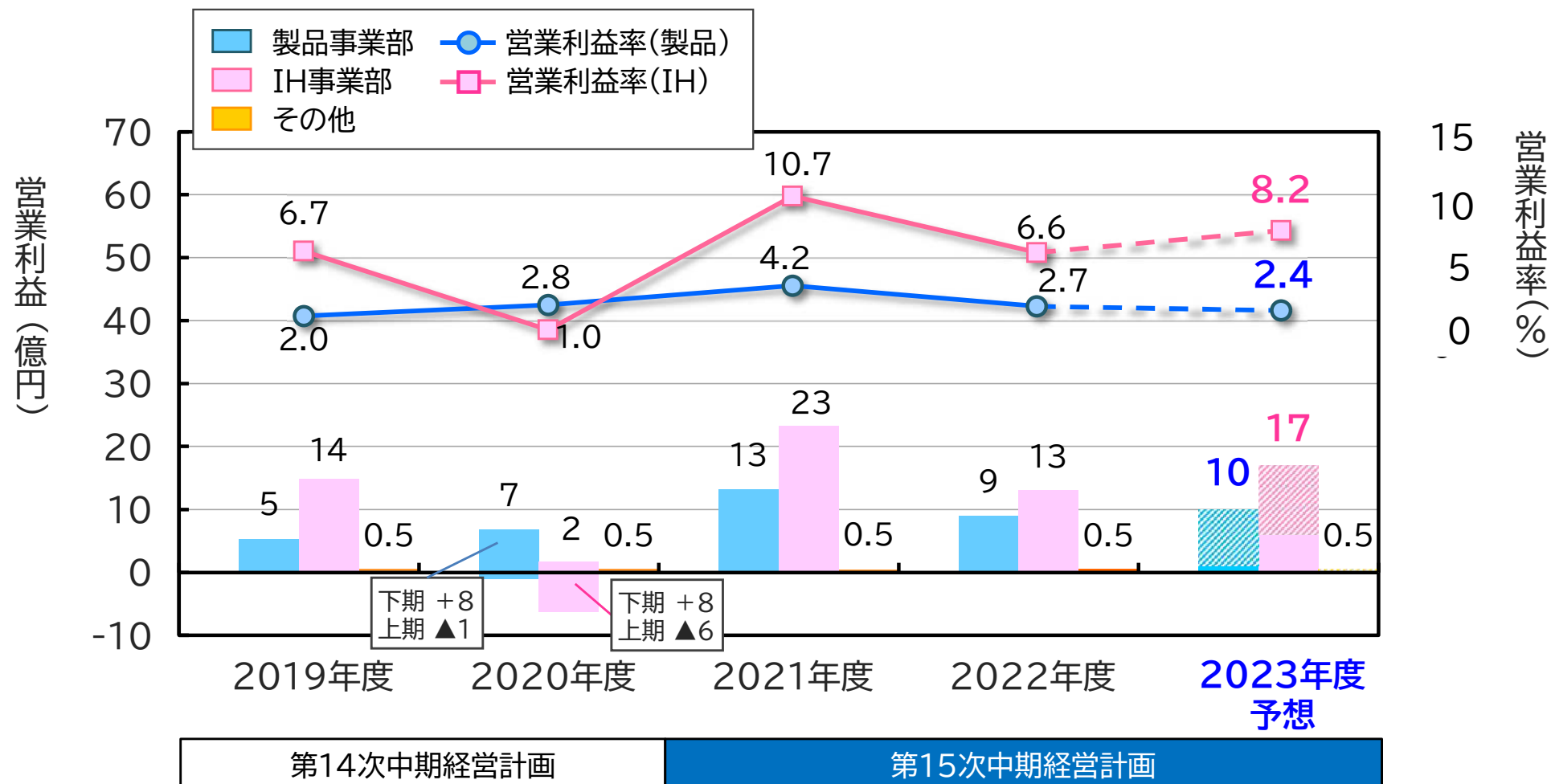
# 11. セグメント情報(連結売上高)

- 製品事業部関連: 下期も販売量増、販価改定活動、為替影響により、前期比12.3%の増収見込み
- IH事業部関連 : 下期は自動車向けの需要回復や販価改定により、前期比4.6%の増収見込み



# 12. セグメント情報(連結営業利益・連結営業利益率)

- 製品事業部関連: 下期は工事が遅れている土木・建築業界からの受注回復、原価低減活動により前年同期並みを見込む。
- IH事業部関連 : 下期は自動車向けの受注回復や原価低減活動により、増益を見込む。

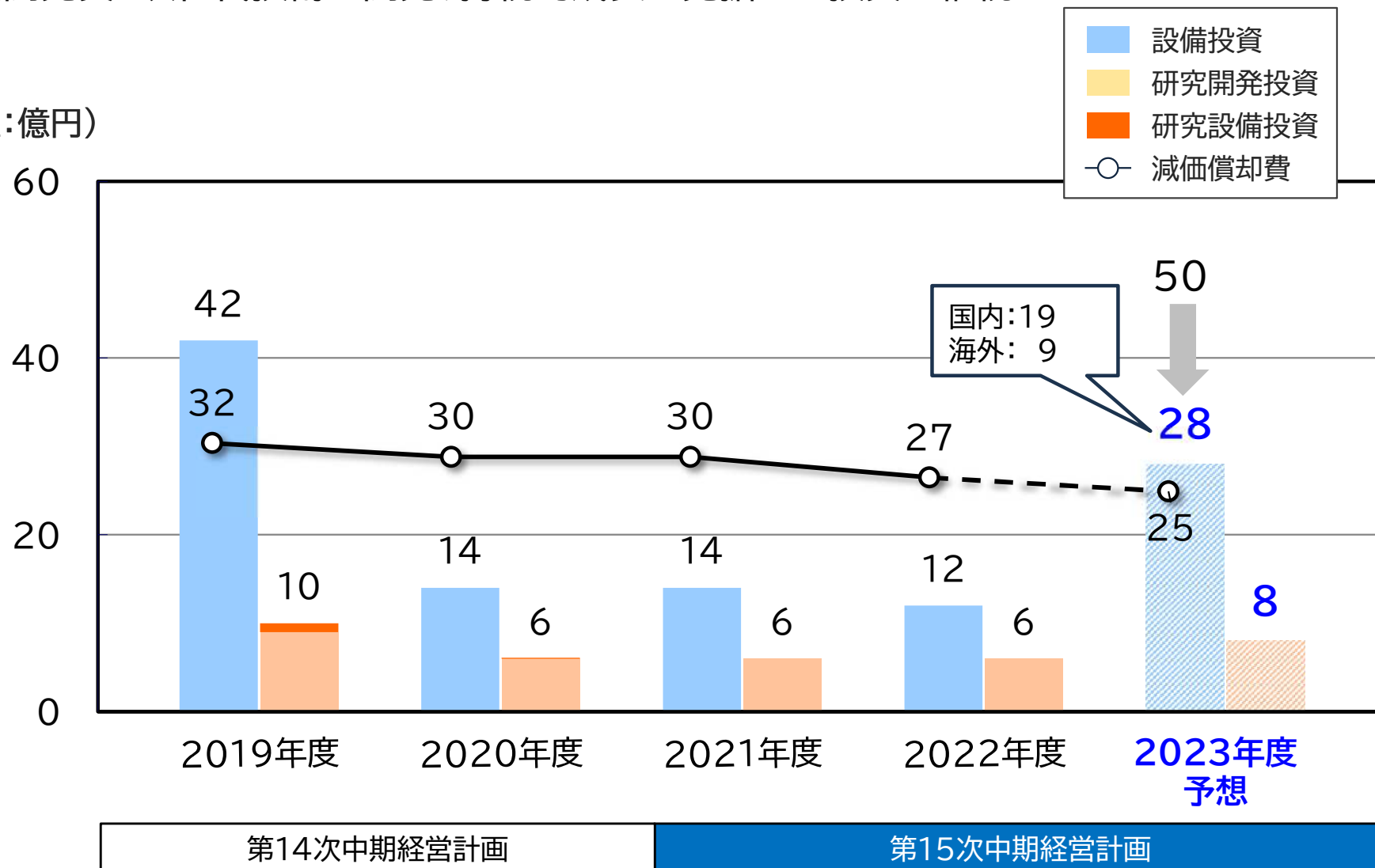




# 13. 設備投資・研究開発費・減価償却費の推移

- 設備投資: 成長分野を中心に積極的な投資を実施するも、複数の案件で次年度へ繰り越し
- 研究開発費: 次世代技術の開発、持続的成長を見据えた投資を継続

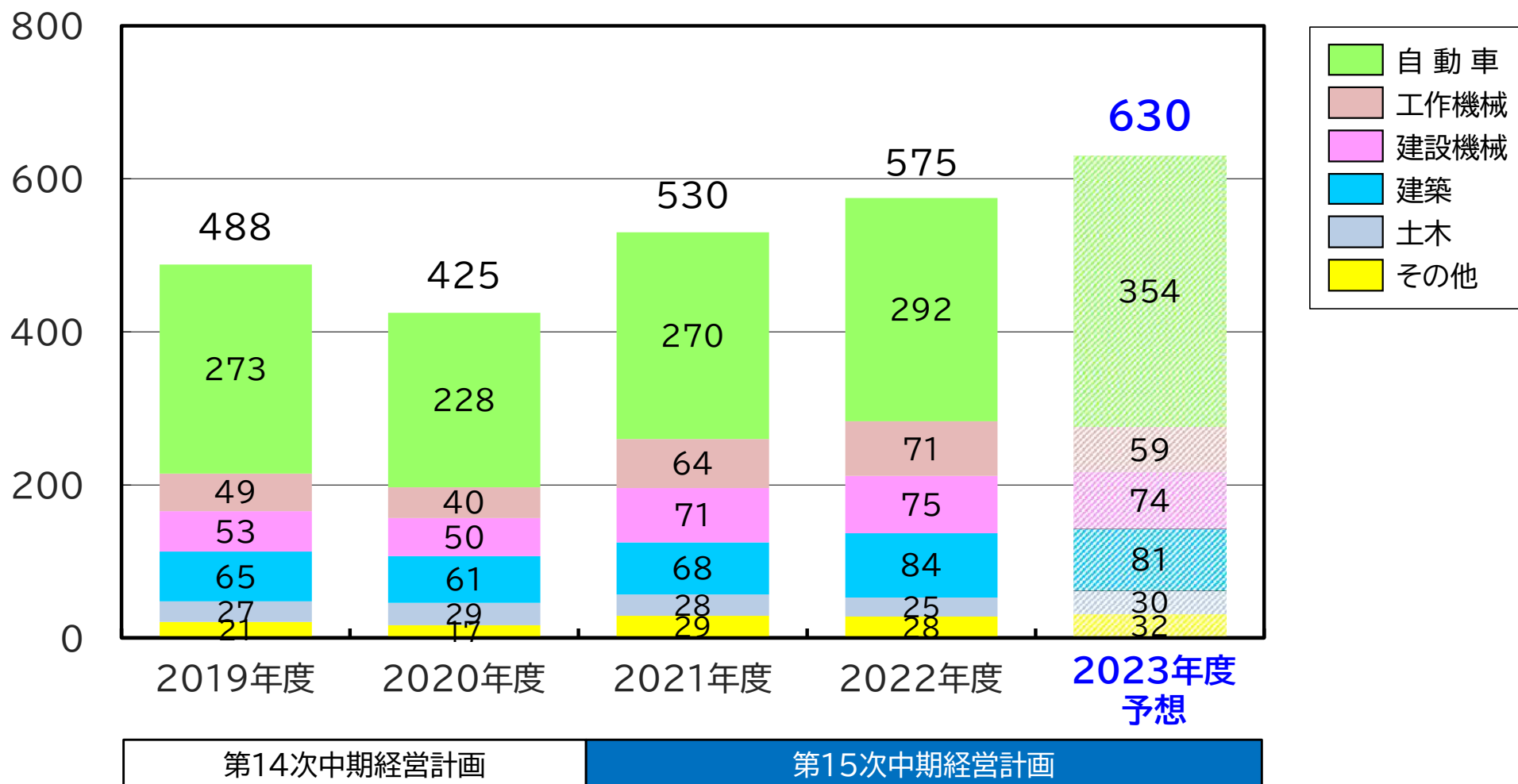
(単位:億円)



# 14. 業界別売上高の推移

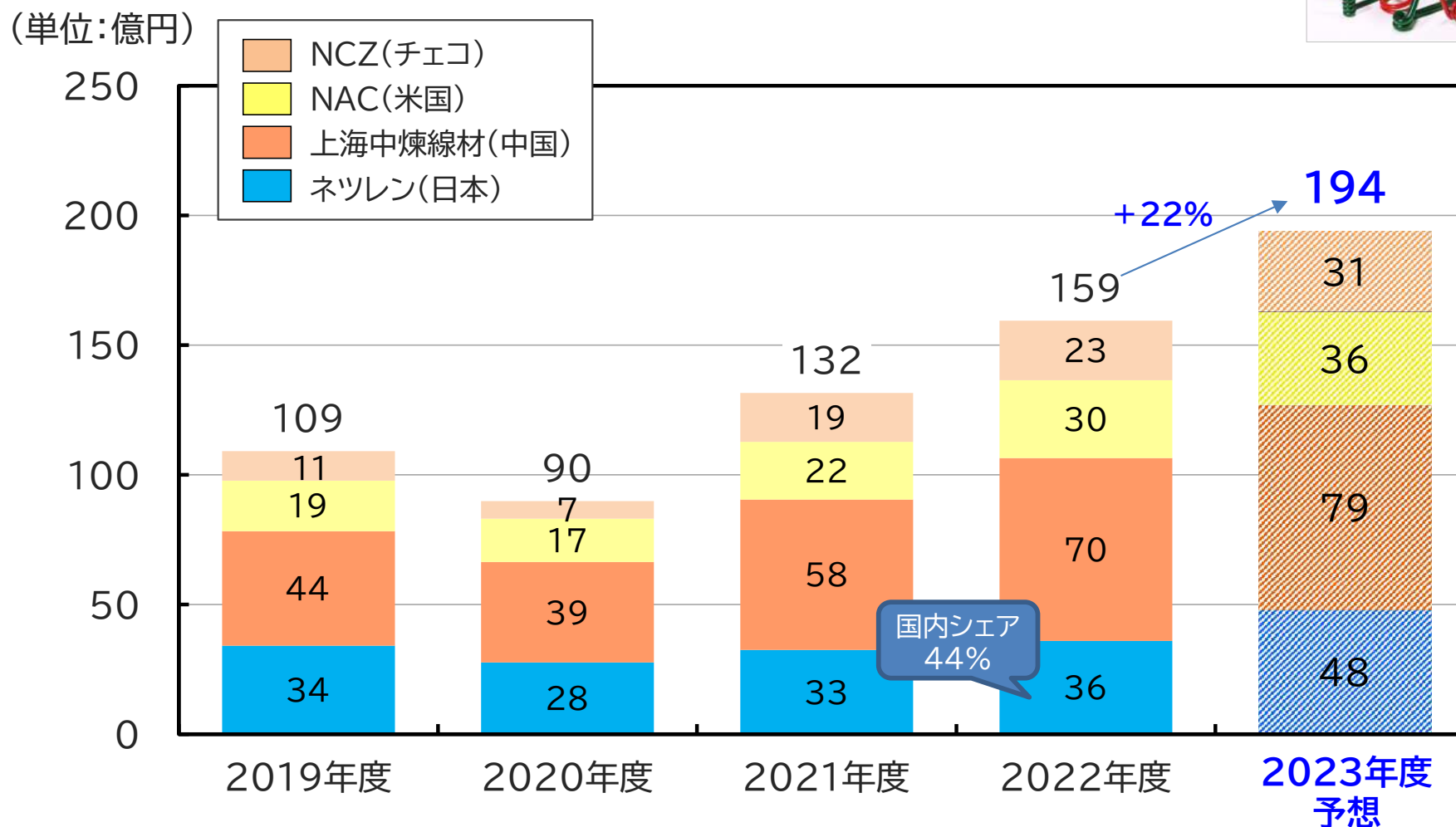
- 低迷していた自動車向けが回復、日本・海外ITW®の拡大により大幅増加、  
工作機械、建設機械、建築向けが減少、土木向けが増加の見込み

(単位:億円)



# 15. 高強度ばね鋼線(ITW®) 売上高の推移

- 日本、海外ともに堅調推移、全地域で販売量増、前期比22%増収を見込む。



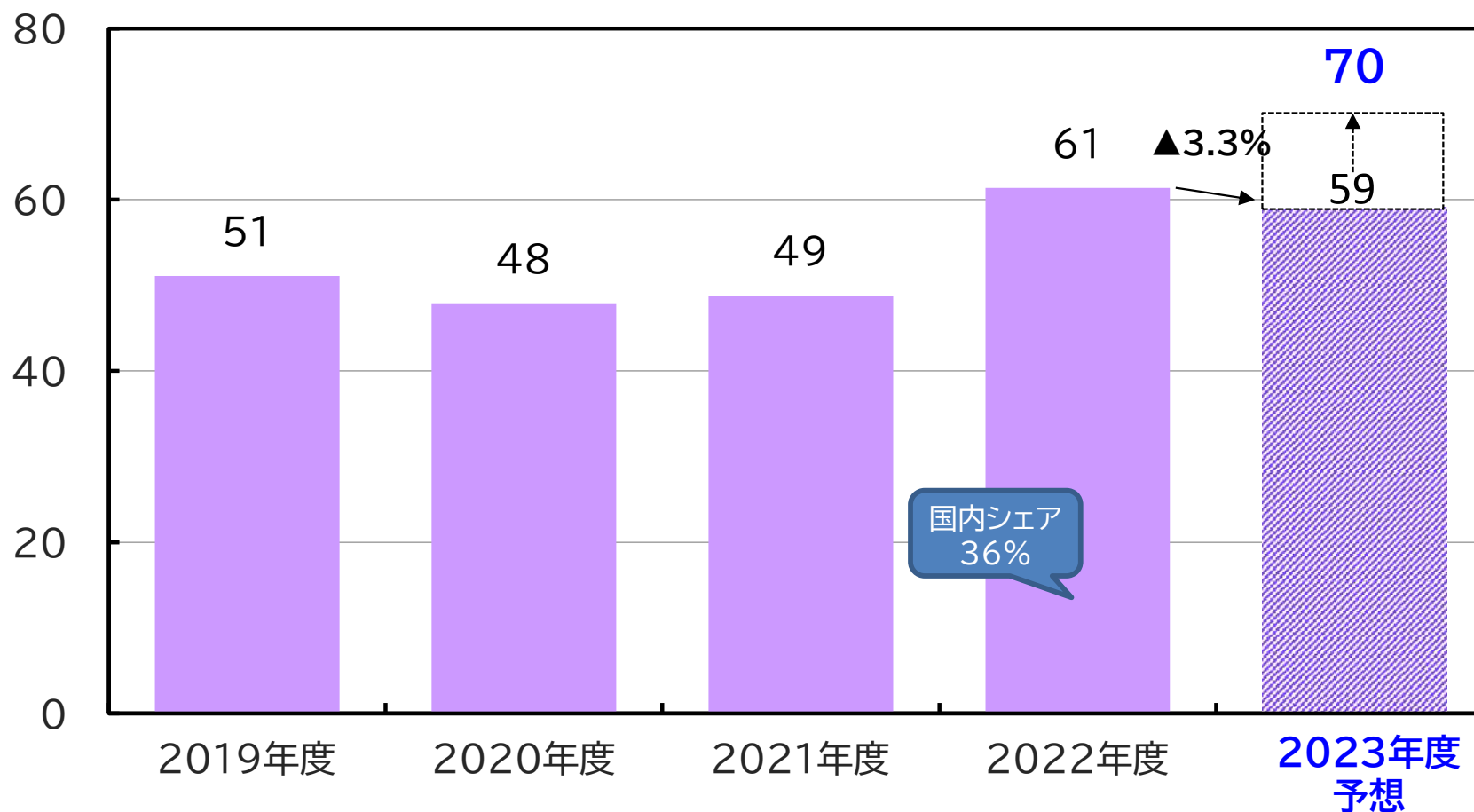
# 16. PC鋼棒・異形PC鋼棒 売上高の推移

製品事業部関連

- コスト増分の販価改定を進めているものの、人手不足等に伴う工事の遅れなどの影響により、前期比3.3%減収となる見込み
- 下期は、半導体工場物件、北海道新幹線関連物件を重点に活動

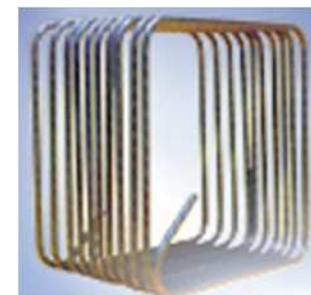


(単位:億円)

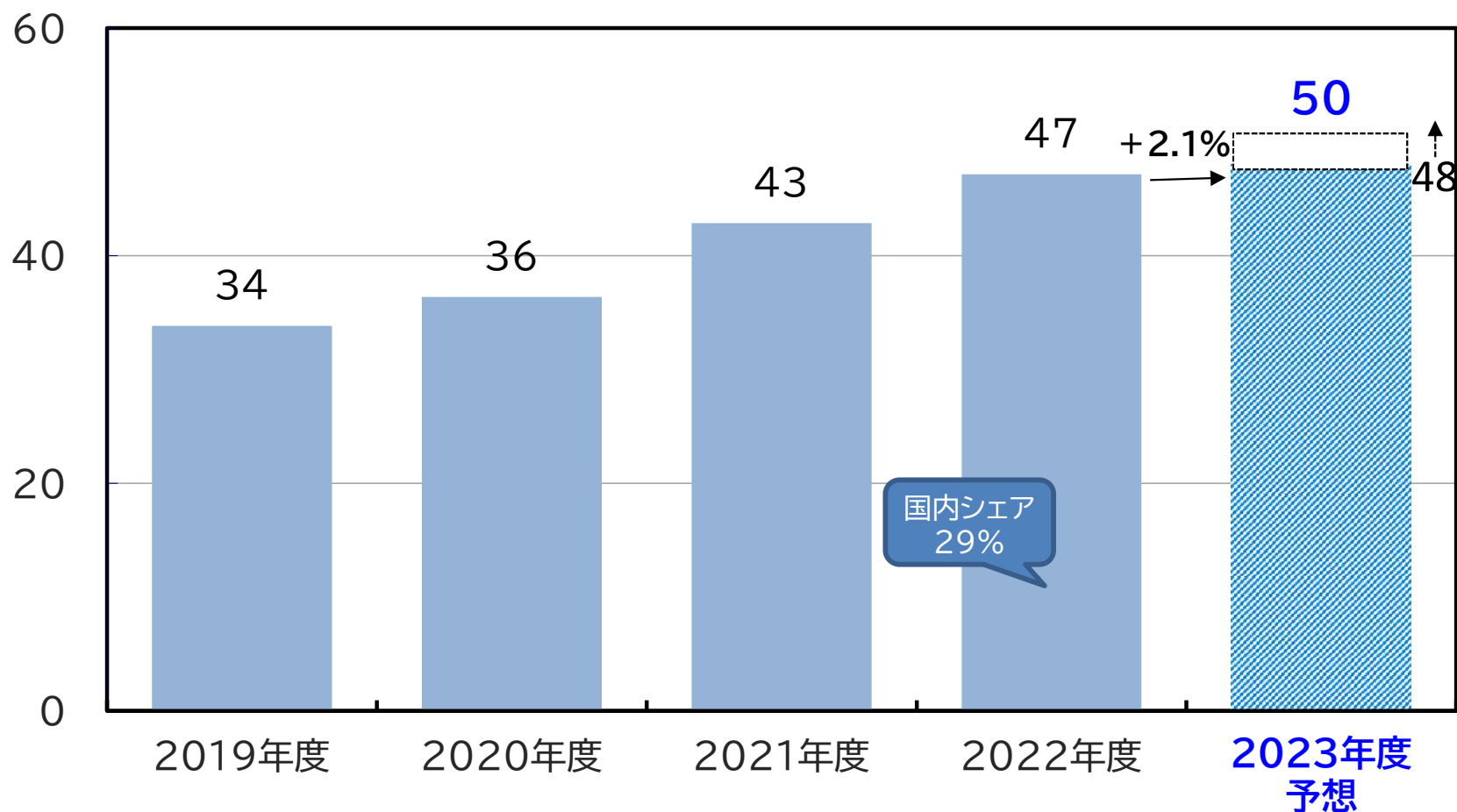


# 17. 高強度せん断補強筋 売上高の推移

- コスト増分の販価改定を進めているものの、人手不足等に伴う工事の遅れなどの影響により、前期比と同水準となる見込み
- 下期は、土木・杭用を重点に活動し、期首予想売上高50億円を目指す。



(単位:億円)

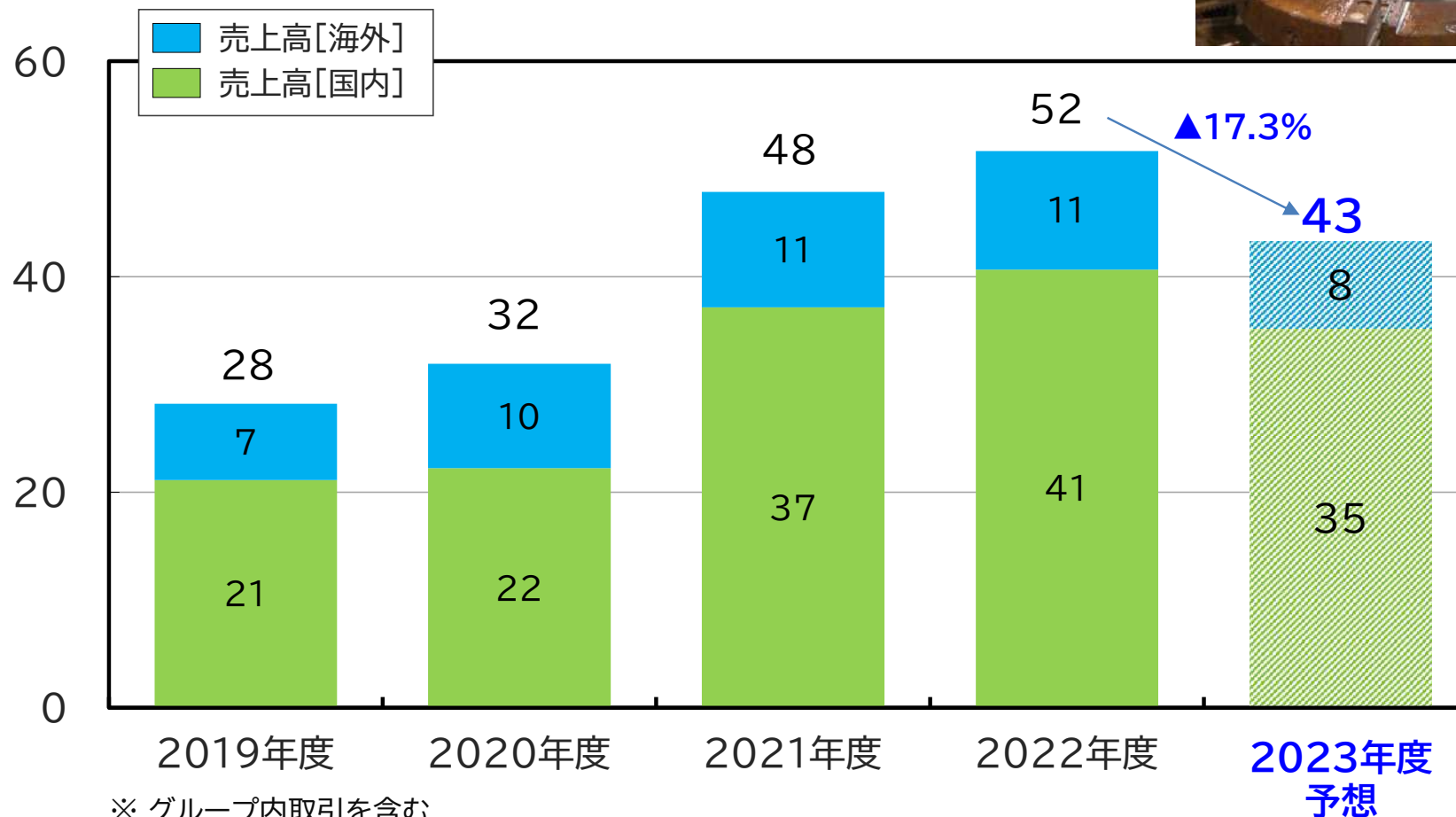


# 18. 旋回輪(建設機械部品) 売上高の推移

- 日本、中国ともに主力である小型・中型機種の販売量の減少を受け、前期比17.3%減収となる見込み



(単位:億円)





# 19. 誘導加熱装置・サービス 売上高の推移

IH事業部関連

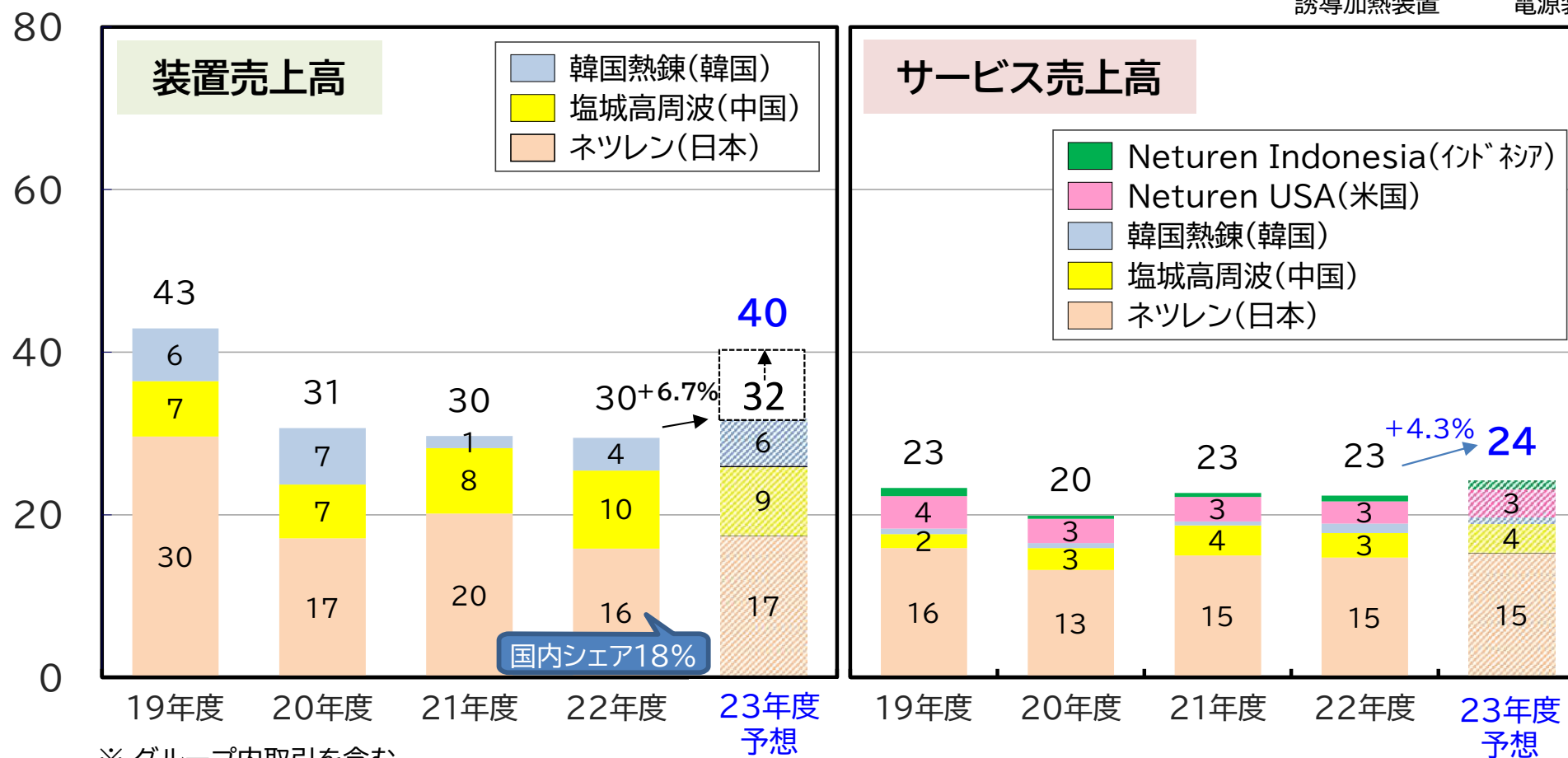


誘導加熱装置

電源装置

- 装置:主要構成部品の長納期化は解消に向かい前期比6.7%増収見込み  
対策をとり期首予想売上高40億円の確保を進める。
- サービス:期首予想売上高を確保し、前期比4.3%増収の24億円の見込み

(単位:億円)



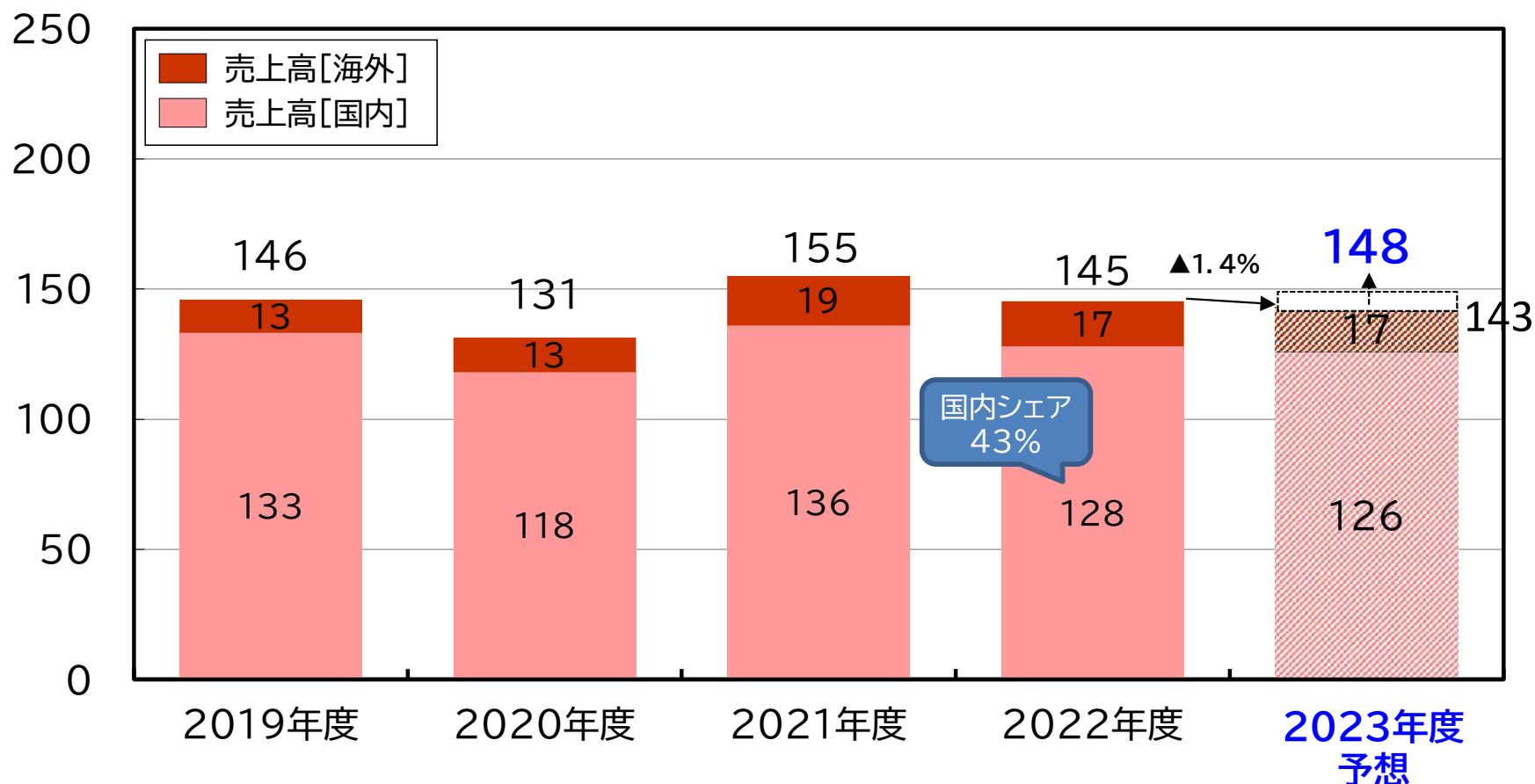
## 20. 熱処理受託加工 売上高の推移

IH事業部関連

- 建設機械は大型機種を中心に比較的堅調、自動車は回復基調で推移しているものの、工作機械が顧客の在庫調整の影響を受け前期比1.4%減収となる見込み
- 自動車以外のお客様の需要を積極的に取り込み、期首予想売上高の148億円を目指す。



(単位:億円)





I. 2022年度 第2四半期 決算の概要

II. 経営実績の推移

III. 第15次中期経営計画の進捗

IV. 成長戦略



# 21. 第15次中期経営計画の進捗①

## 基本方針

「NETUREN VISION 2030 (進化と躍進)」の達成に向けた第一フェーズとして「持続可能な社会づくりへの貢献」と「企業価値向上」を目指す。

第1の戦略	コア事業の更なる競争力強化、 新技術・新商品・新事業の市場投入で <b>収益基盤を確立</b>
第2の戦略	<b>N-DX体制</b> でデジタル化を促進し <b>情報展開力を向上</b> させ、 3年後の完全運用を目指す。
第3の戦略	SDGsを経営の中心に据え、 CO <sub>2</sub> 削減を推進し <b>持続可能な社会づくりに貢献</b>
第4の戦略	<b>グローバル</b> にグループ営業力、 マーケティング力の強化を担う <b>人財の輩出</b>

主要経営指標 (連結)	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 当初目標	2023年度 見直し目標
売上高	530 億円	575 億円	560 億円	630億円
営業利益	37億円	23 億円	40 億円	28億円
営業利益率	7.0%	4.2%	7.1%	4.4%
ROE(自己資本当期純利益率)	4.6%	0.6%	5.0%以上	3.4%以上
ROA(総資産経常利益率)	5.6%	3.8%	5.5%以上	4.2%以上

## 22. 第15次中期経営計画の進捗②

### 第1の戦略:コア事業の更なる競争力強化、新技術・新商品・新事業の市場投入で収益基盤を確立

項目	2023年度上期の取り組み・成果
製品事業部関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高強度せん断補強筋：北海道新幹線高架橋の柱に採用</li> <li>● FIT(フロントフォークインナーチューブ)：オンロードバイクの新規品番受注</li> <li>● ITW：ネツレンアメリカの第2次増設(熱処理設備)は2月に設置、3月より量産開始する。製造キャパ40%増へ(太径ITW受注向け営業開始)</li> </ul>
IH事業部関連 (熱処理受託加工)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大型焼入れ部品の受注拡販(船舶、大型建機、等)</li> <li>● 自動車部品のグローバル受注推進(ネツレンインドネシア、ネツレンメキシコ) ・ネツレンインドネシアにて23年量産開始の新規5品番を受注</li> <li>● 生産設備のIoT化推進(デジタル化による作業工数削減)</li> <li>● 受託熱処理の前後工程取り込み強化(ハブ、シャフトの塗装工程取り込み)</li> </ul>
IH事業部関連 (誘導加熱装置・サービス)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 新型電源(FPGA搭載)の海外製造、販売開始(中国、韓国)</li> <li>● メキシコ地区でのメンテナンス強化(ネツレンメキシコを拠点として)</li> </ul>

### 第2の戦略:N-DX体制でデジタル化を促進し情報展開力を向上

#### 2023年度上期

- |   |  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● 全社電子文書管理システム構築に関する検証実施</li> <li>● VR技術を危険予知などの研修に活用するための検証実施</li> <li>● IoT活用により業務効率の改善のための課題抽出</li> <li>● 連結業務フロー図の整備と課題整理</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 業務自動化に向けたRPAツールの実証実験</li> <li>● ネツレンビッグデータ構築に向けたクラウド活用<br/>の実証実験</li> </ul> |
|---|--|

# 23. 第15次中期経営計画の進捗③

## 第3の戦略:CO<sub>2</sub>削減を推進し、持続可能な社会づくりに貢献

### 2023年度の主な施策

- 尼崎・神戸工場に2022年度設置した太陽光発電システムの効果もあり、前年同時期と比較して**2023年度上期CO<sub>2</sub>削減を実現**
- **2024年度 岡山工場**における太陽光発電システム導入の本格的な検討を開始  
⇒**2025年度いわき工場新設、2026年度尼崎・神戸工場増設も計画**中
- 輸送におけるCO<sub>2</sub>削減に向けた取り組みとして、**トラックの平均積載量の向上**を目指す。



## 第4の戦略:グローバルにグループ営業力、マーケティング力の強化を担う人財輩出

### 2023年度の主な施策

技能人財の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全社QCサークル大会/121名(ネツレンアメリカ/高周波熱錬(中国)軸承参加)</li> <li>・スキルマップの整備・活用、<b>目視测温大会で初の女性社員優勝</b></li> <li>・年度研修計画の着実な実施</li> </ul>
多様な働き方の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有給休暇取得促進(平均10日間)</li> <li>・育児・介護休暇、パパ育休の利用促進</li> </ul>
ダイバーシティの実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>女性社員を海外渉外担当として配属</b></li> <li>・女性管理職候補の階層別研修参加</li> <li>・女性社員に配慮した職場施設の充実</li> </ul>

・社長と従業員間のコミュニケーション促進を目的に社長診断と称する従業員懇談会を実施:10事業所

# 24. 第15次中期経営計画の進捗④

- 積極的なIR活動を継続実施
- 2023年10月には、これまでのCSRLレポートに代わり、統合報告書を発行

No.	IR活動の内容
1	ラジオ日経の「経営トップに聞く！強みと人材戦略」出演(2023年4月)
2	英文開示対応 ・外部調査分析会社による企業分析レポート・ファクトシート、有価証券報告書、決算説明会資料
3	財務・非財務データを網羅した統合報告書発行(2023年10月)

**NETUREN HIGHLIGHT INTEGRATED 2023**  
財務・非財務ハイライト

**NETUREN 2023**  
統合報告書

**売上高**

年次	2018	2019	2020	2021	2022
金額(億円)	51,015	49,876	42,567	51,004	57,524

**ROE(自己資本当期純利益率)/ROA(総資産当期純利益率)**

年次	2018	2019	2020	2021	2022
ROE	5.0	2.6	1.9	5.4	3.8
ROA	1.6	0.4	0.9	4.4	0.6

**自己資本比率**

年次	2018	2019	2020	2021	2022
比率(%)	72.3	72.8	74.4	72.7	74.3

**価値創造モデル**

NETURENの強みと社会課題/メガトレンド

経営理念/サステナビリティ

経営計画/マ

NETUREN VISION 2030 ありべき姿

持続可能な社会づくりに貢献する

# 25. 第15次中期経営計画の進捗⑤ キャピタルアロケーション

## 基本方針

- 財務の健全性を確保しつつ、バランスシートの改善を実施(WACC・ROEの改善)
- 営業CFおよび資産売却で得た資金を将来の成長に向けた戦略・成長分野に積極的に投資
- 短期および中長期的な成長に伴う利益拡大に対しては、更なる株主還元(配当・自己株式取得)を実施

### 第15次中期経営計画(2021年4月～2024年3月)

  = 2023年9月30日現在予想額

(単位:億円)

#### キャッシュイン

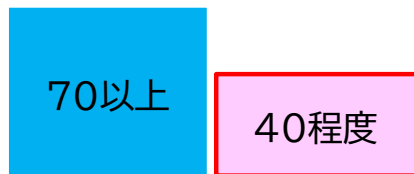
営業CF+資産売却&手元資金



定常投資

- ・工作機械向け焼入装置
- ・研磨機および矯正機増設
- ・生産設備の自動化
- ・IoT導入による労働生産性改善投資案件

増産、省人化・合理化、工場耐震補強・設備修繕



#### キャッシュアウト

戦略投資

研究開発、新商品、DX、環境・省エネ・CO2削減、M&A

40～70以上

49程度

- ・米国やインドネシアにおける増産投資案件
- ・ICT化投資
- ・加熱コイル3Dプリンター設備導入
- ・再生可能エネルギーへの転換投資

株主還元

2023年度中間配当より自己資本配当率(DOE) 3.0%以上

配当 30以上  
自己株式取得 30程度

41程度

30程度

2023年度の自己株式取得は5/11取締役会で自己株式15取得を決議

※資産売却には、政策保有株式売却を含む  
※必要に応じ負債による調達(デッド)も活用

配当:2021年～2022年度:連結配当性向40%以上、下限は自己資本配当率(DOE)1.5%  
2023年度:自己資本配当率(DOE)3.0%以上



# 26. NETUREN VISION 2030達成に向けた次期中期経営計画の基本コンセプト

- NETUREN VISION 2030達成に向けて、**資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応**を含め、新たな取り組みも行いつつ、第16次中期経営計画を現在策定中

**NETUREN VISION 2030**  
「進化と躍進」 2021.4~2031.3 [10年間]

◆あるべき姿  
企業価値を高め続けるとともに  
持続可能な社会づくりに貢献する

◆目指す姿  
CO<sub>2</sub>排出削減に有効なIH熱処理技術を核とする  
技術・製品を通じ、企業価値を高めて  
環境負荷を低減する

N-DXの展開を進め、  
グループ全員の力を結集して  
進化を続けグローバルに躍進する

**第15次中期経営計画**  
2021.4~2024.3 [3年間]

事業の選択と集中  
利益基盤の確立

N-DX体制  
N-DX体制でデジタル化した情報展開力向上

SDGs  
SDGsを経営の中心に据え、CO<sub>2</sub>削減で持続可能な社会づくりに貢献

グローバル  
グローバルにグループ営業力、マーケティング力の強化を担う人財の輩出

第15次中期経営計画 スローガン  
**Change!! New NETUREN 2023**

## 事業成長と新規事業の創生

- 事業ポートフォリオ分析による成長分野への積極投資
  - ・新たな事業展開や技術開発スピード化
  - ・M&A検討

## ROE・PBR目標実現

- ROICの本格展開
  - ・ネツレングループの目標設定
  - ・グループ会社含む各拠点ごとにアクション落とし込み

## サステナビリティ取り組み

- CO<sub>2</sub>排出量削減推進
  - ・グローバル展開
  - ・サプライチェーン展開(TCFDにて随時開示予定)

I. 2022年度 第2四半期 決算の概要

II. 経営実績の推移

III. 第15次中期経営計画の進捗

IV. 成長戦略





## 27. 成長戦略① グローバル事業拡大～ITW®のグローバル展開

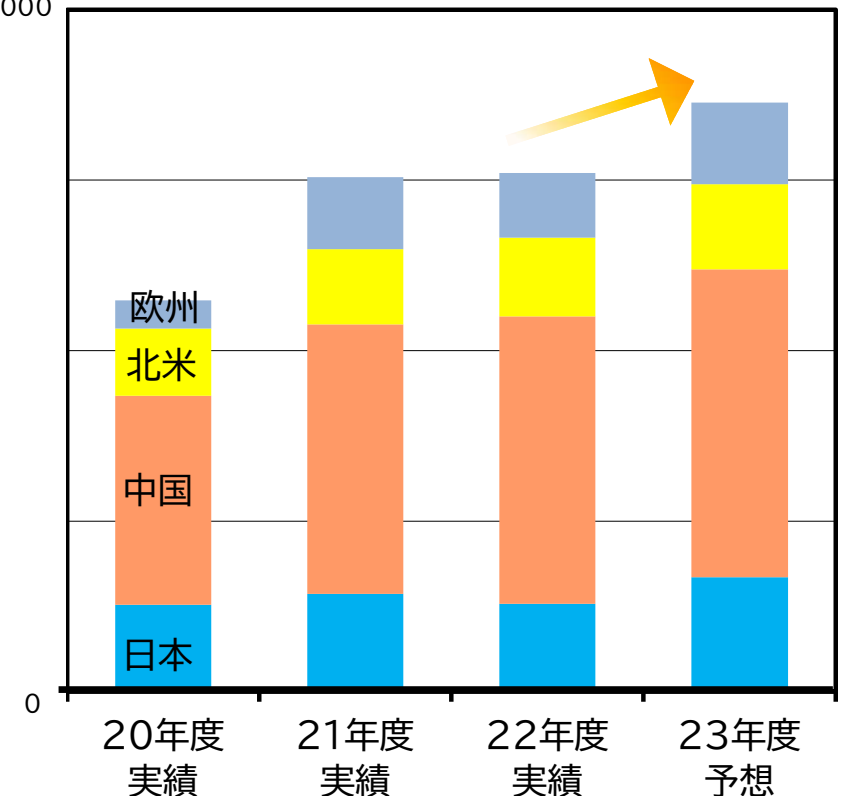
現在の主力製品を確実に伸ばし、グローバル事業の拡大を継続

### <主な進捗>

- 日本**
  - 日本国内の自動車挽回生産に併せて販売量増加傾向
  - マザー工場の赤穂で生産能力1.5倍への取組みも継続
- 中国**
  - 中国の自動車販売の回復により販売量増加傾向
  - 中国国内新規顧客開拓、海外輸出開拓に注力
  - EVメーカーへの拡販も継続
- 北米**
  - 2024年初旬、第2次増設完了計画により生産能力40%拡大へ
  - 太径ITW®の生産も可能になり、EV車、大型車をターゲットに拡販を狙う。
- 欧州**
  - アフター市場の回復、顧客シェアの拡大により販売量は増加傾向
  - 2024年4月の国際ワイヤー産業展への出展準備中



(単位:トン) 100,000 地域別のITW®販売量の推移



## インドネシアにおける自動車用軸受部品の熱処理受託を増産、更なる増産投資も検討開始

### インドネシアの市場環境

- 地産地消でインドネシアの国内自動車市場は継続成長、同国からの輸出も増加継続予測
  - ・自動車メーカーの部品の現地調達強化の流れ



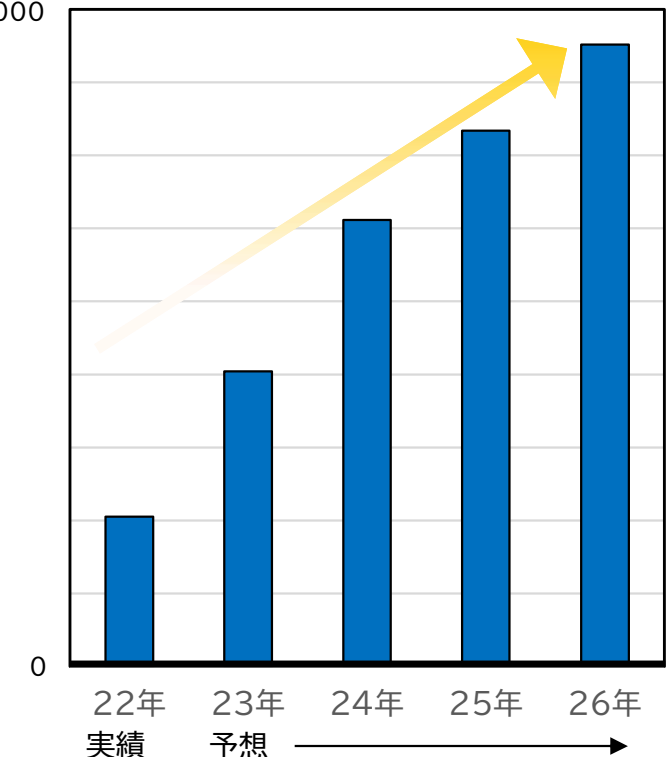
### ネツレンインドネシアの動き

- これまで
  - ・2019年 設備投資を決定
  - ・2021年 1号機の量産開始
  - ・2022年 増産投資を決定
  - ・2023年 2号機の量産開始
- 今後
  - ・販売量増予測に基づき、更なる増産投資を検討開始



(単位:個) ネットレン・インドネシア販売量予測

500,000



## 29. 成長戦略③ 国内既存事業領域の拡大～超大型部品熱処理の実現

## 当社の技術力を活かし、超大型部品の熱処理受託加工を対応

## 過去実績(例)

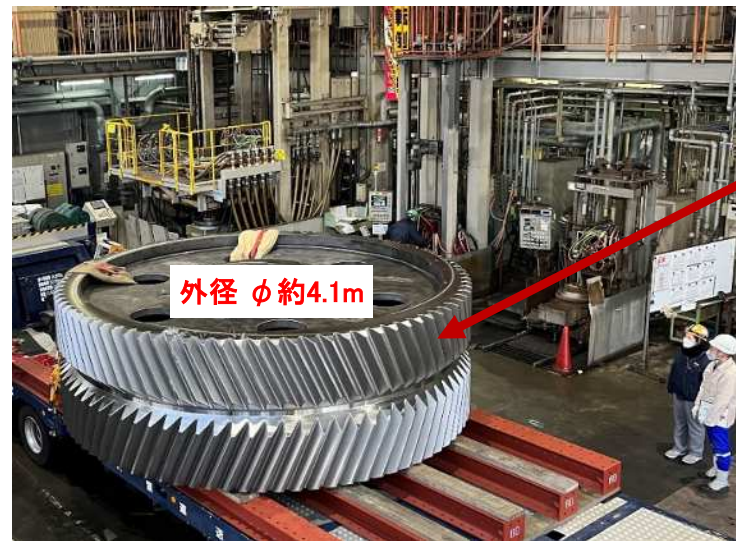


トンネルマシン用歯車付旋回ベアリング(外径 約8.0m)

船舶エンジン用クランク軸(全長 約3.9m)  
産業機械用歯車付シャフト(全長 約2.2m)

## 直近実績

産業用機械製造メーカーより超大型部品の熱処理受託加工を受注



外径 φ約4.1m

## 【製品概要】

製品名: 熱間圧延装置用減速機部品  
(ダブルヘリカルギア)  
形状: 外径 約4.1m、高さ 約1.3m  
重量: 約47t

滞りなく焼入れを実施し  
良品質製品をお客様に  
納入

↓  
大型製品の引き合い増

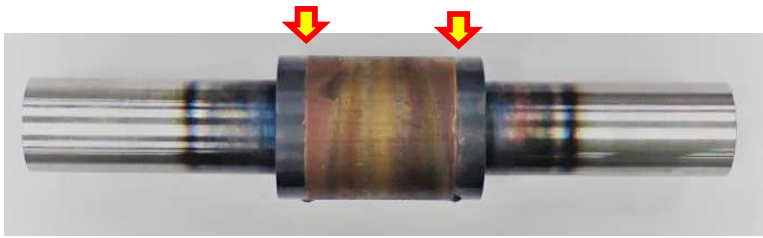




# 30. 成長戦略④ 新技術の実現～新たな接合技術「ネツレンMB工法<sup>®</sup>」の開発

## 高周波加熱技術と鉄鋼材料の特性を組み合わせた新しい接合技術を実現

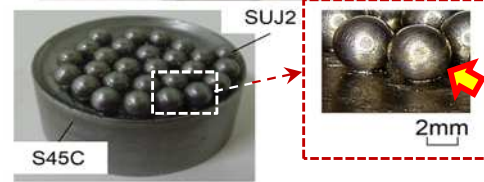
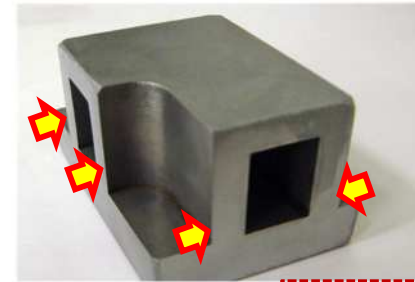
●接合事例①(中空パイプ-軸)



●接合事例②(異径鉄筋)



●接合事例③(複雑形状)



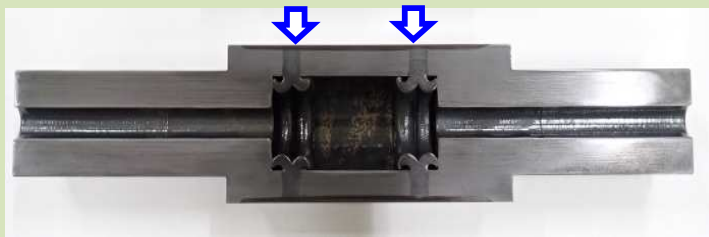
第26回(関西)機械要素技術展に  
同技術を出展  
<2023年10月開催>

<従来方法との断面比較>

①ネツレンMB工法<sup>®</sup>



②摩擦圧接



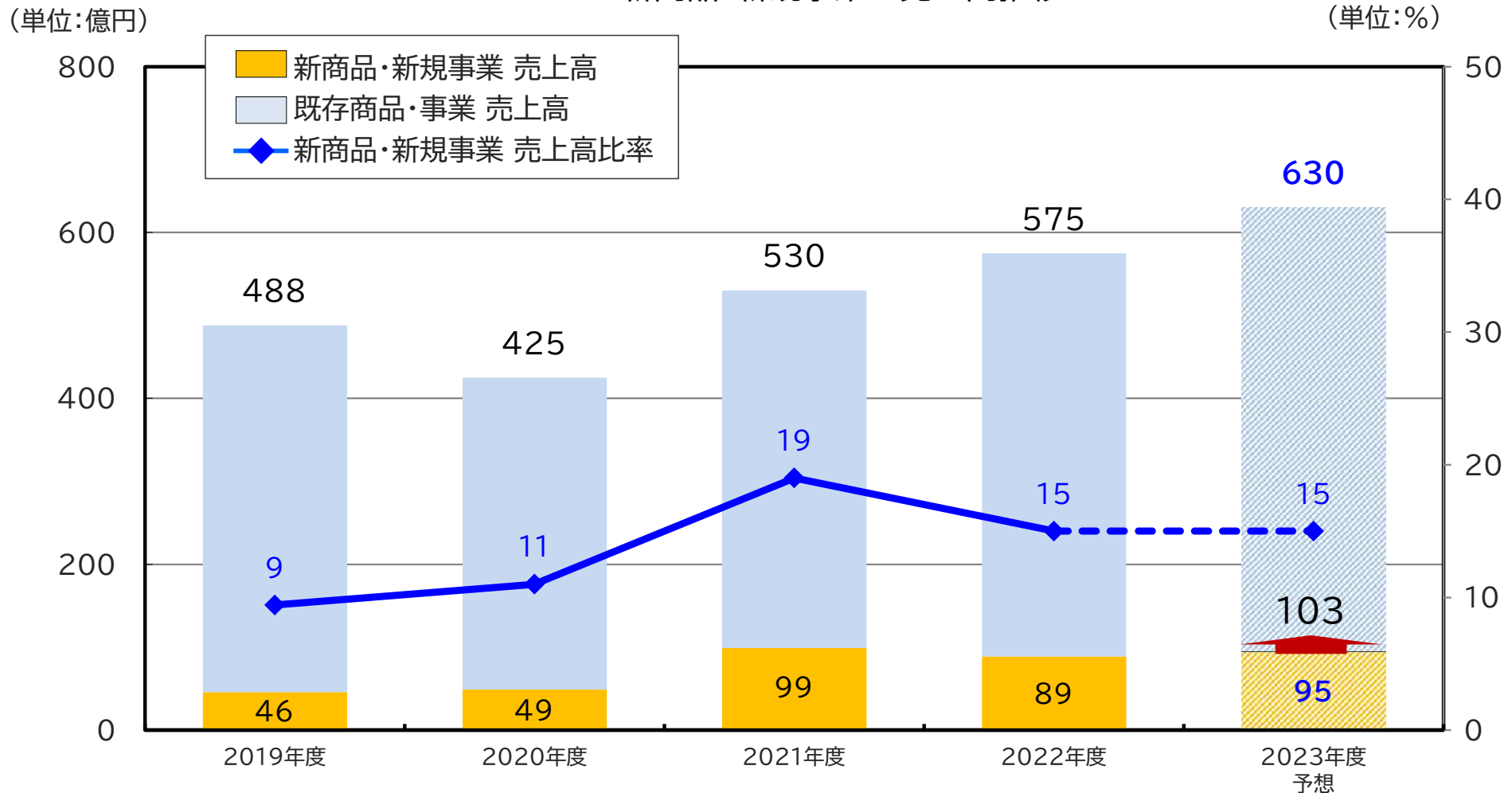
### 効果

- 通常<sup>の</sup>接合ができなかった部品の接合
  - ・複雑な形状や部品の内部などにも使用できるため、これまでの加工・接合方法ではできなかった部品の製作が可能
- 後工程の簡略化
  - ・寸法精度が高く、接合によるバリなどが少ないため、後工程の簡略化が可能
- 異形材の接合
  - ・部品の接合により成形できるため、削り出し等の一体成形品と比較し、材料費と加工費の低減が可能
- 異鋼種の接合
  - ・高価な材料の使用が必要な部分だけとなるため、材料費の低減が可能

# 31. 新商品・新規事業への取り組み

- 逆T字モデルの概念である部門間連携を推進し、100億円超の新商品・新規事業を実現する。

<新商品・新規事業の売上高推移>



# NETUREN VISION 2030

「進化と躍進」 2021.4～2031.3 [10年間]



## ◆あるべき姿

企業価値を高め続けるとともに  
持続可能な社会づくりに貢献する

## ◆目指す姿

CO<sub>2</sub>排出削減に有効なIH熱処理技術を核とする  
技術・製品を通じ、企業価値を高めて  
環境負荷を低減する

N-DXの展開を進め、  
グループ全員の力を結集して  
進化を続けグローバルに躍進する

## 第15次中期経営計画

2021.4～2024.3 [3年間]



事業の選択と集中

利益基盤の確立



N-DX体制でデジタル化した情報展開力向上

N-DX体制



SDGs

SDGsを経営の中心に据え、CO<sub>2</sub>削減で持続可能な社会づくりに貢献



グローバル

グローバルにグループ営業力、マーケティング力の強化を担う人財の輩出



第15次中期経営計画 スローガン

Change!! New NETUREN 2023



当社WEBサイト

(注)当資料に記載の将来に関する予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により開示した予想数値と異なる場合があります。

# Appendix



©2008 NETUREN designed by MONDO DESIGN



# ネツレンのご紹介①

ネツレンは1946年、わが国で初めてIH(誘導加熱)技術の事業化・工業化に成功したパイオニア企業です。創業以来蓄積されたIH(誘導加熱)技術の中核とし、金属製品の製造と受託加工、装置販売の事業展開をしています。

商号	高周波熱錬株式会社(ネツレン)
所在地	東京都品川区東五反田二丁目17番1号 オーバルコート大崎マークウエスト
設立	1946年(昭和21年)5月15日(現社名)
資本金	64億18百万円
売上高 (2022年度)	連結:575億24百万円 単独:336億90百万円
従業員数 (2023年9月末現在)	連結:1,638名 単独920名
上場金融商品 取引所	東京証券取引所 プライム市場 証券コード:5976



代表取締役社長執行役員  
大宮 克己

# ネツレンのご紹介②

## ネツレン国内事業所一覧

- ① いわき工場
- ② 茨城工場
- ③ 本社
- ④ 人財育成センター
- ⑤ 湘南事業所・平塚工場
- ⑥ 可児工場・可児NH工場
- ⑦ 名古屋工場
- ⑧ 刈谷工場
- ⑨ 製品事業部大阪営業所
- ⑩ 尼崎工場
- ⑪ 神戸工場 (株)ネツレン・名南
- ⑫ 赤穂工場 (株)ネツレン小松
- ⑬ 岡山工場

- (株)ネツレン・ヒラカタ
- 九州高周波熱錬(株)
- ⑬ ⑫ ⑪ ⑩ ⑨ ⑧ ⑦ ⑥ ⑤ ④
- ① (株)旭電波工業所
- ② (株)ネツレン・ヒートトリート
- (株)ネツレンハイメック
- (株)ネツレンタクト

## ネツレングループ

国内：9社25拠点

海外：6カ国15社16拠点

※2023年9月30日現在



● 国内・海外グループ会社

# ネツレンのご紹介③

事業区分	主な製品・サービス
製品事業部 関連事業	高強度鋼材製品 ・PC鋼棒関連製品 ・高強度せん断補強筋 ・高強度ばね鋼線ITW® 一貫加工部品 ・中空ラックバー ・旋回輪(建設機械部品)
IH事業部 関連事業	熱処理受託加工 誘導加熱装置・サービス
その他	賃貸事業 ほか

## 高強度鋼材製品

建築



土木



自動車



## 一貫加工部品

中空ラックバー(自動車)



インナーチューブ  
(2輪車)



旋回輪(建設機械)



## 熱処理受託加工

自動車



建設機械



産業・工作機械



## 誘導加熱装置

高周波焼入設備

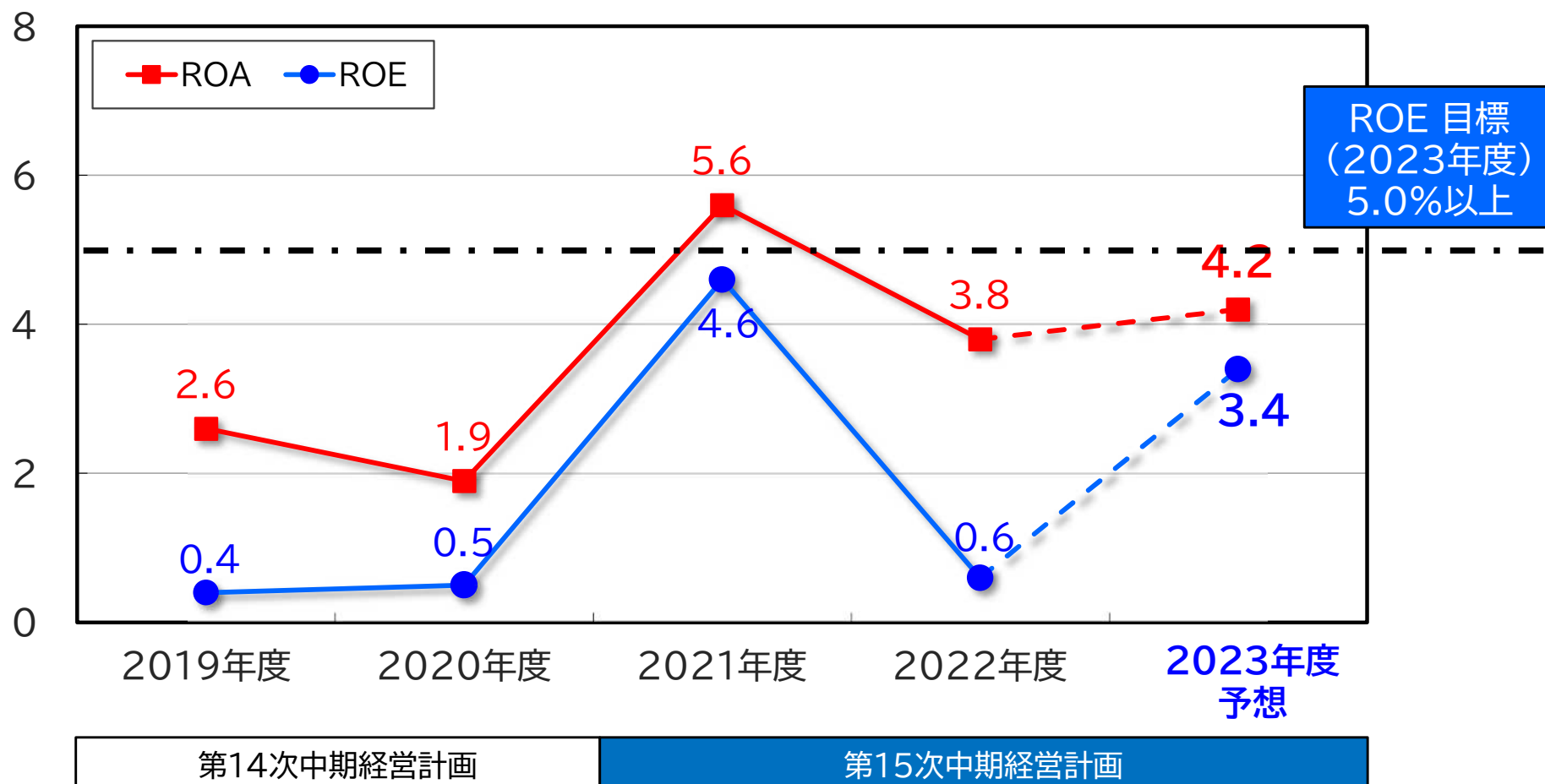
高周波電源



# ROE・ROAの推移

- 2023年度は、ROE 3.4%、ROA 4.2% を見込む

(単位:%)





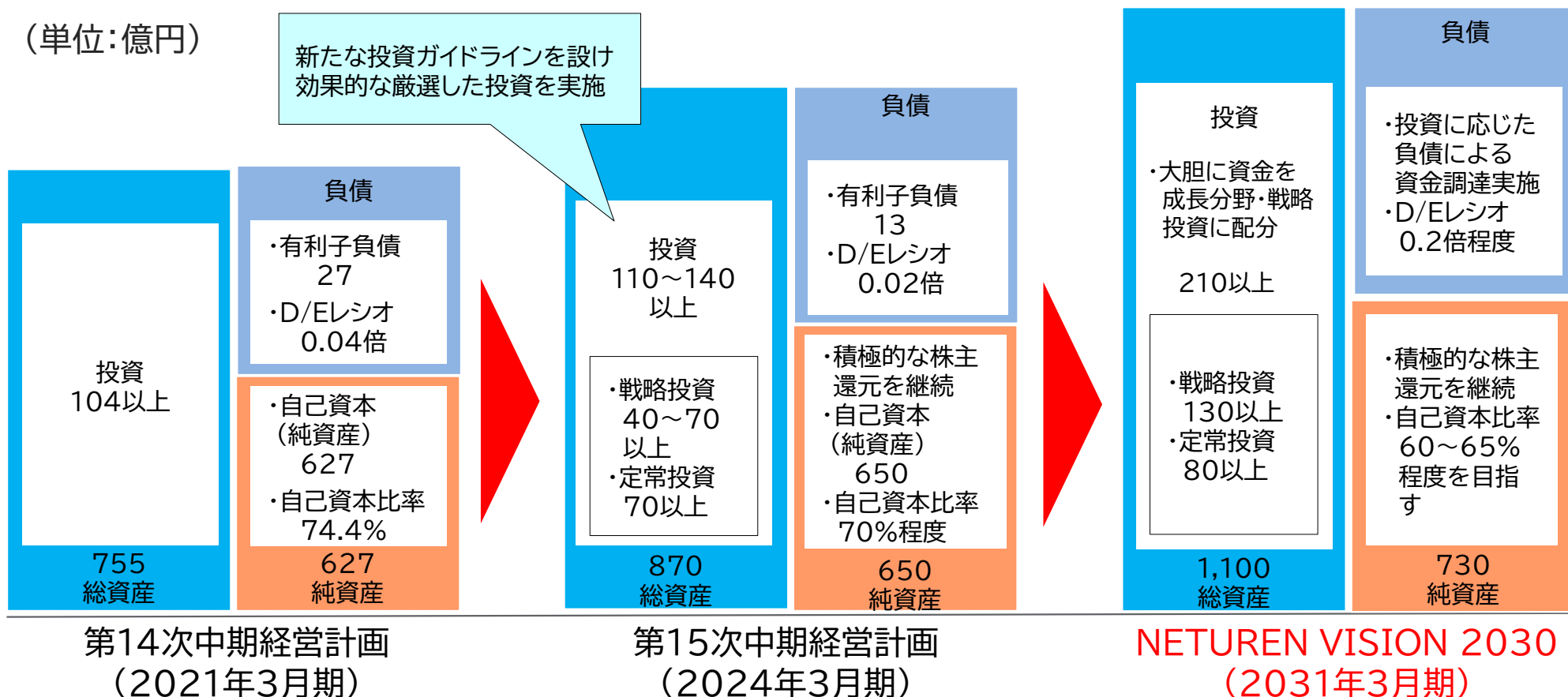
# 第15次中期経営計画の進捗 目指すべきバランスシート

## 将来的な 目標BS像

- 持続的な企業価値向上を目指し、事業リスクを勘案しつつ、大胆に資金を成長分野、戦略投資に配分
- 事業ポートフォリオ見直しによる資産効率の改善
- 財務の健全性および資本効率のバランスを配慮し、純資産、自己資本をコントロールしながらVISION2030に向けた目指すべきバランスシートを実現

(単位:億円)

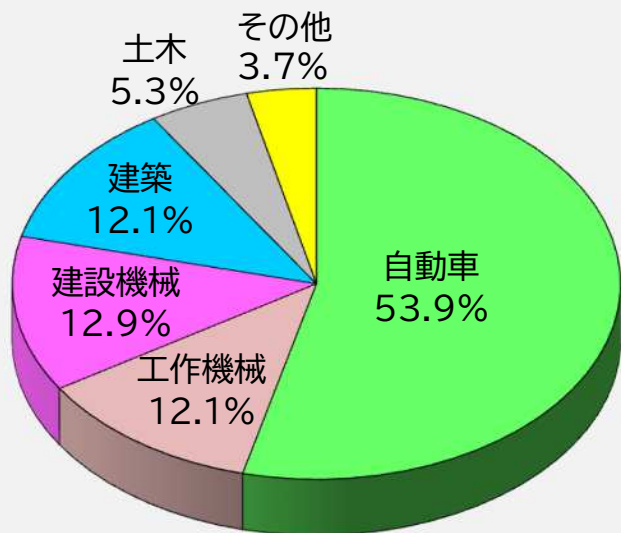
新たな投資ガイドラインを設け  
効果的な厳選した投資を実施



# 業界別売上高比率

- 2023年度業界別売上高比率は、自動車56.2%／自動車以外43.8%

## 2022年度 実績



## 2023年度 予想

